

熱性疾患における

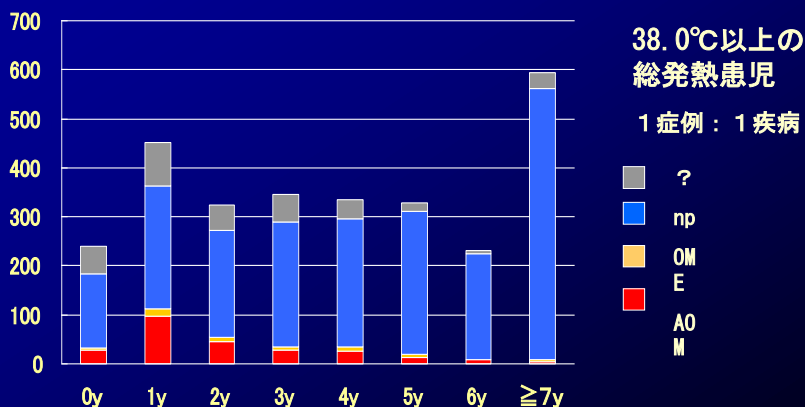
中耳炎の合併

わたなべ小児科医院
渡部礼二

中耳炎が意外と多い感じがありましたが、昨年までは耳の訴え以外に、繰り返しの熱とか、リンパ節が触れるとか、熱のフォーカスがはっきりしない場合に、鼓膜の所見をとっていましたが、今年に入ってから、総ての発熱患児の鼓膜所見をとるようにし、それをまとめましたので報告します。

対象とその中耳炎の合併

平成11年1月～6月 総計 2,848例



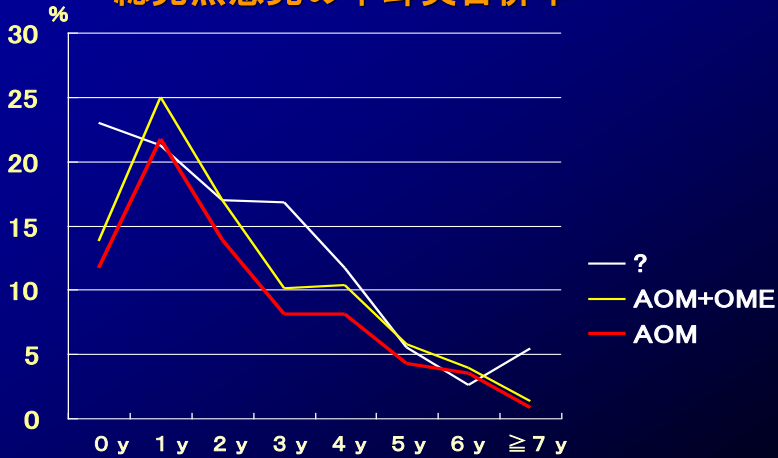
本年の最初より6月末までの分であります。総ての発熱患児で、生後2ヶ月から15歳半までの2848症例であります。一連の熱性の疾病につき何度受診しても1症例としました。

耳鏡を用い観察しました。こんな演題を出しましたが、耳鼻科で研修を受けていませんし、鼓膜の所見に自身がある訳ではありません。鼓膜が真っ赤とか、ぽんぽんに腫脹して黄色い膿が貯留しているとか、ピンクや赤く充血して鼓膜が混濁しているものを急性中耳炎としました。鼓膜が混濁していても腫脹や発赤がないものは滲出性中耳炎としました。

滲出性中耳炎の陥凹の所見は未だ充分取れません。泣いた時、鼓膜が発赤しても、透過性のあるものは正常としました。耳鼻科からすると所見の取り方は甘いかもしれません。

スライドはその年齢別です。じゃまな耳垢は除いて観察する様にしておりますが、それでも多くの症例で鼓膜所見が取れませんでした。灰色の部分であります。赤が急性中耳炎。橙色が滲出性中耳炎。青色は正常。左右鼓膜所見が違うものは優位順に急性中耳炎、滲出性中耳炎、分からない、正常、としました。総て男女差はありませんでした。

総発熱患児の中耳炎合併率

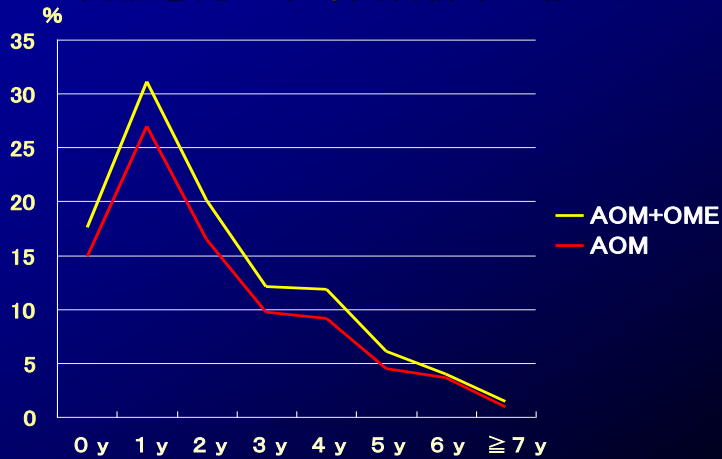


その数を割合で示しました。1歳代では5人に1人位が急性中耳炎でありました。赤い線であります。鼓膜所見の取れないものも中耳炎と同じ位の割合であります。白色の線であります。

なお他に発熱していない中耳炎の症例もありますが、今回の数には含まれておりません。

5人に1人位：21.7%

発熱患児の中耳炎合併率（修正）



その所見の取れないものを除きますと、実際の合併率だと思われませんが、1歳台では4人に1人強位が急性中耳炎を合併している事になります。滲出性中耳炎を加えると3人に1人になります。所見の取り方に甘い所がありますので、それ以上の児が鼓膜に異常がある事になります。この黄色い線です。

4人に1人強位：27.0%

約3人に1人：31.3%

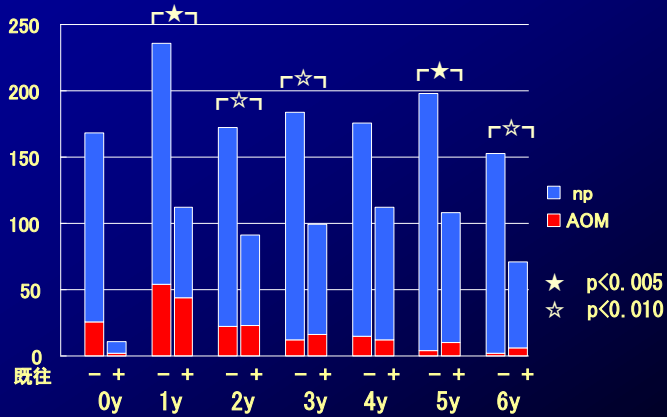
急性中耳炎としての症状

1 2 / 2 5 3

耳痛	1 0 (2歳以上)
不機嫌	2 (2歳未満)
耳漏	2

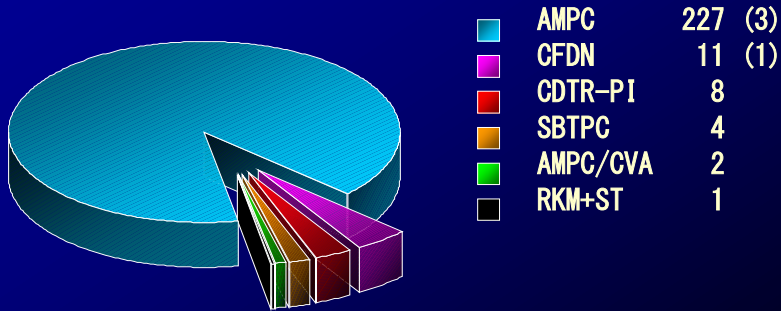
ほとんどの症例で中耳炎らしい訴えは多くありませんでした。なお耳漏の1例は耳を覗いて判ったので症状ではなく所見かもしれません。

急性中耳炎とその既往



カルテに記載してある中耳炎の既往との関連を見ました。星がついているのは有意差があったものです。すなわち、中耳炎に1度罹れば後は要注意と言う事であります。

初期使用抗菌剤



議論が色々ある所ではありますが、急性中耳炎と診断した時の最初の使用抗菌剤です。括弧内はその抗菌剤で改善しなかった症例数です。殆どの症例はアモキシリンでいいようです。最低一週間は投与する様にしております。耳漏が出てきたもの、一週間後に 鼓膜所見の改善しないか正常でないティンパノグラムの場合は、耳鼻科へ御願ひしております。

AMPC以外の抗菌剤使用の理由

(経過中も含む)

AMPC 使用中	6
抗菌剤（？）使用中（他院）	1
抗菌剤使用直後（他院）	5
溶連菌感染症	2
細菌性腸炎	1
水痘後	1
服薬拒否	1
外耳道に膿瘍	1
その他	5

最初あるいは経過途中でアモキシリン以外の抗菌剤を使用した理由であります。重複症例もあります。

(参考)

その他の5：少し前迄の使用の抗生剤、及び前回中耳炎の時の抗生剤などを考慮しAMPC以外を今回First Choiceとして使用

急性中耳炎の背景

ヘルパンギーナ	4	
水痘発症前	4	
" 後	1	
突発疹	3	
溶連菌感染症	2	
細菌性腸炎	1	
歯肉口内炎	1	
抗菌剤中止後発熱	7	
抗菌剤使用中	7	全 253 例中

その中耳炎と診断した時の上気道炎以外の患者の背景です。
発熱の原因が他の所見で明らかであっても鼓膜の所見をとる
必要があるようです。

結語

発熱児には
鼓膜の診察をしよう

結語はこう言う事であります。

日米での中耳炎分類の比較

(片

山)

Bluestoneら	鼓膜の色調、凹凸		貯留液	日本の教科書
Otitis media without effusion	発赤	平坦	なし	(鼓膜炎)
				初期
Acute otitis media	発赤(混濁)	膨隆	膿	化膿性中耳炎
Otitis media with effusion	正常or混濁	膨隆	膿	慢性化 or 滲出性へ移行
		平坦	膿 or 滲出液	
		陥凹	漿液	滲出性中耳炎
				狭義のOME

御存知かもしれませんが、日本と欧米での中耳炎の定義が少し違います。文献を読む時注意された方がよいと思います。私のは日本の定義になります。

(参考)

AOM: 318耳

Pink 53

Red 182 (米式 AOM: 74.5% OME 25.5%)

Yellow 81

? 2 (Otorrhea)